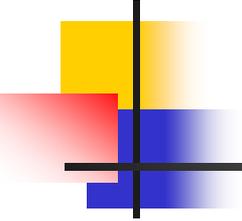


PETボトル再商品化における 入札制度に関する検討課題(案)について

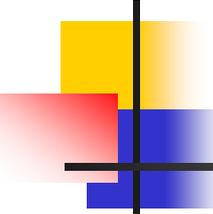
平成25年4月26日

(公財)日本容器包装リサイクル協会



目 次

1. 平成26年度以降の入札方法に関するアンケート回答の集計結果
2. アンケートからの抽出項目
3. 主要抽出項目と原因・問題点の絞込み
4. 現状の問題点と検討課題(案)



1. 平成26年度以降の入札方法に関する アンケート回答の集計結果

設問3. 平成26年度以降の入札制度等に関すること

(1) ポリエステル素材の市況に強く影響を受ける、容リルートのPETボトルの入札制度等について望ましい選択肢としてはどのように考えられますか。
(択一)

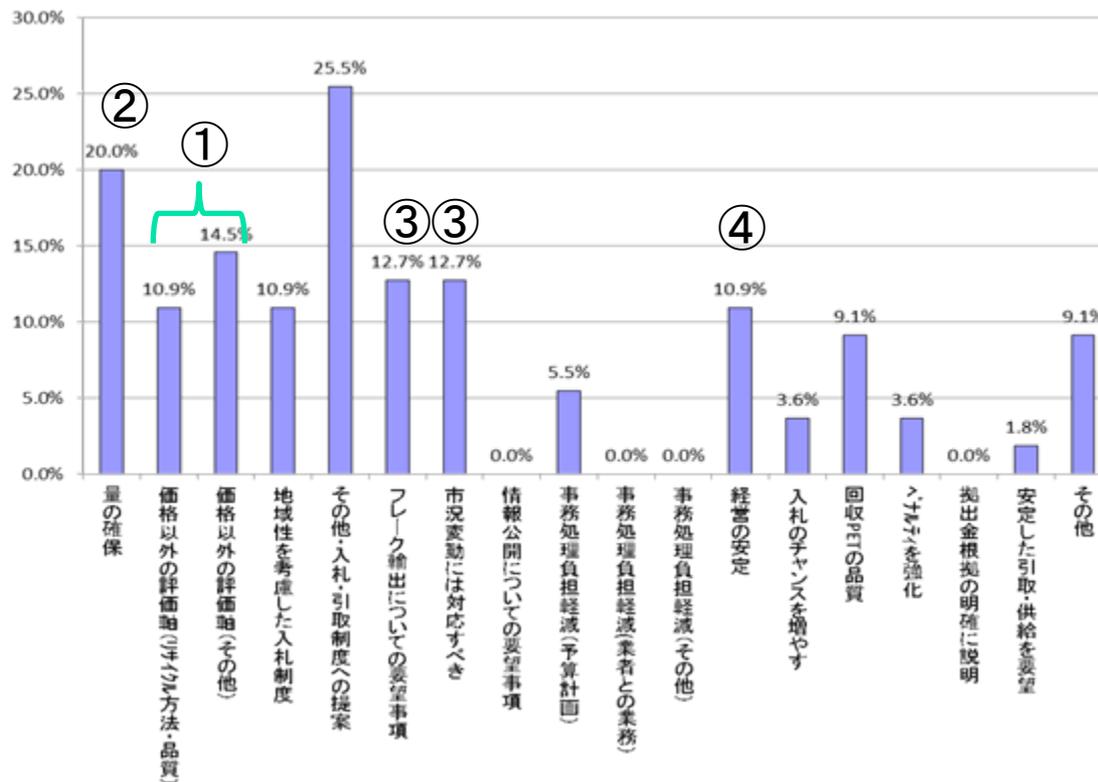
- a. 年1回入札で期中に市況変動しても年初落札単価を変えない従来どおりの方法
- b. 年複数回の入札を行い、期中には特別な対応をしない方法
- c. 年1回入札で期中に大幅な市況変動(高騰、急落)があった場合、何らかの指標を決めておき、期中でも落札単価を変動させる方法
- d. 複数年の入札で期中に大幅な市況変動(高騰、急落)があった場合、何らかの指標を決めておき、期中でも落札単価を変動させる方法
- e. その他の方式

○bを選択された方にお聞きします。入札回数は何回が適当だと思いますか。
○cまたはdを選択された方にお聞きします。落札単価を変動させる場合の指標はどのようなものが適当だと思いますか。
○eを選択された方は、下記に具体的内容を記入してください。

平成26年度以降の入札方法に関する アンケート回答の集計結果

	a.1回/年	b.複数回/年	c.1回/年+指標	d.1回/複数年+指標	e.その他	合計
再商品化事業者	6	12	22	3	10	53
	11%	23%	42%	6%	19%	100%
利用事業者	4	9	6	2	4	25
	16%	36%	24%	8%	16%	100%
市町村・ 事務組合	137	189	126	13	6	471
	29%	40%	27%	3%	1%	100%
%合計	56%	99%	92%	16%	36%	300%
加重平均%	19%	33%	31%	5%	12%	100%

2. アンケートからの抽出項目(再商品化事業者) 53社



①価格以外の評価軸

②量の確保

•入札単価の安定に繋がる要素の一つとして、自治体からの「容リ協会ルート」への申し込み量の拡大を図ることだと思います。「独自処理ルート」の自治体等について、「容リ協会ルート」へ全量戻すための強制力をもった仕組みの構築が必要だと考えます。

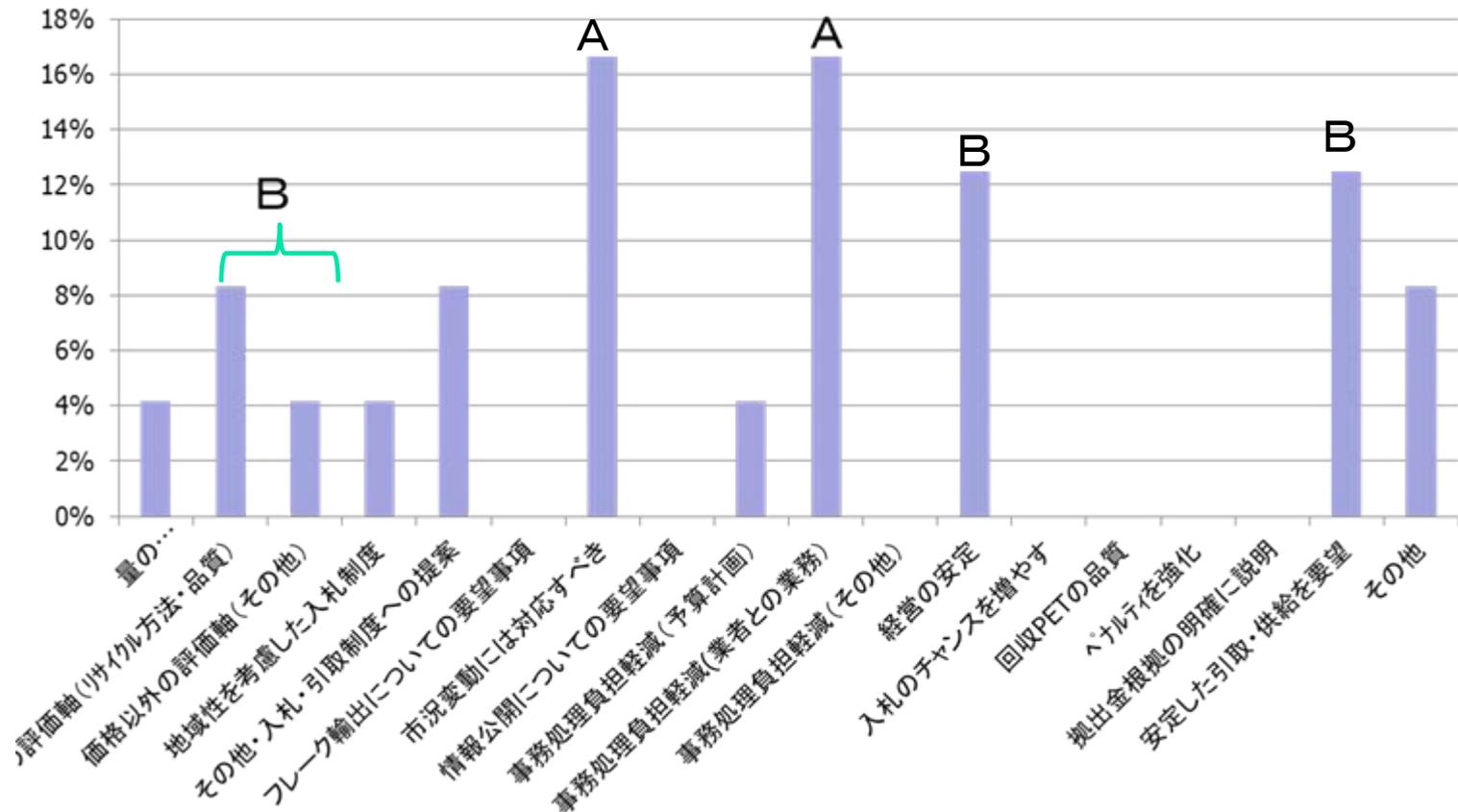
•市町村申込量に対する再商品化能力が2倍近くあり、入札において過当競争となっている状況が一つの問題であると考えます。市町村申込量の増加に努めると同時に、その他プラスチック事業のような総合的評価や製品に対する評価等、査定において評価項目を増やし、全体の再商品化能力の抑制を視野に入れる必要があるのではないのでしょうか。

③市況変動への対応、フレーク輸出

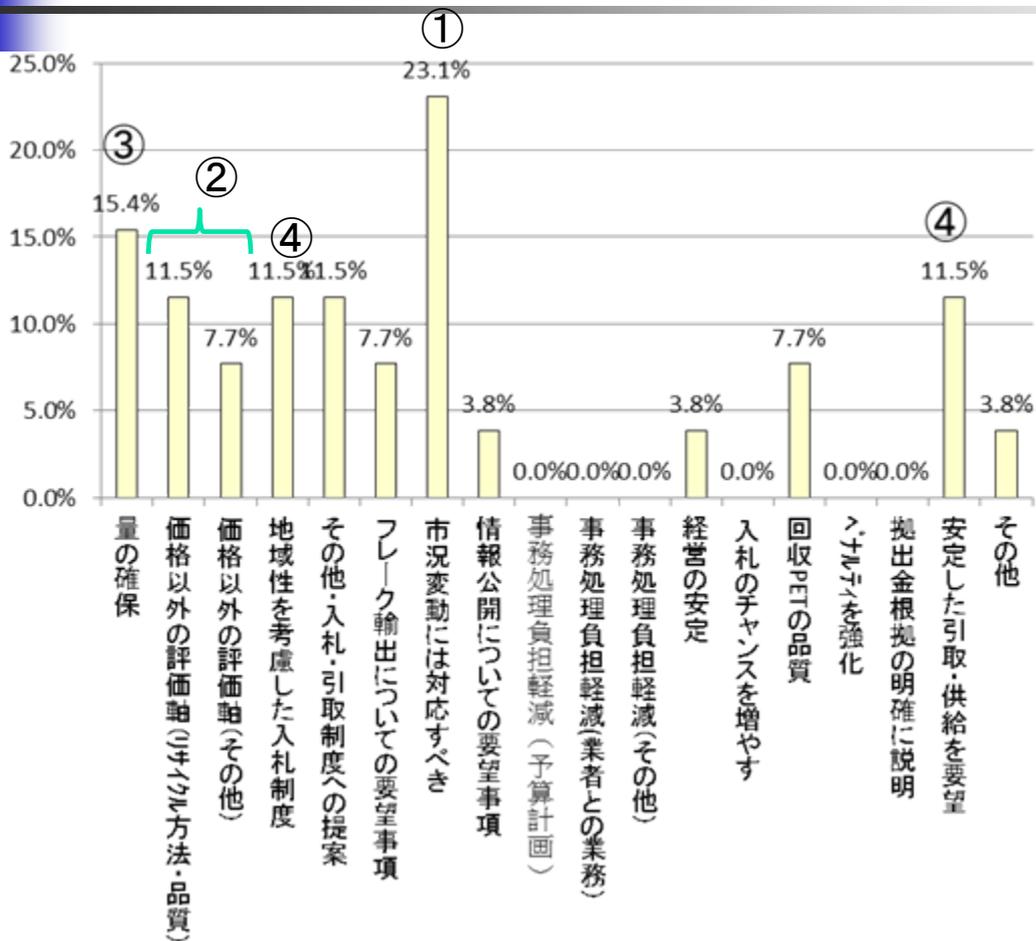
④経営の安定

<参考>

第1回検討会プレゼンテーションからの 抽出項目(再商品化事業者の代表3社)



アンケートからの抽出項目(利用事業者) 25社



①市況変動への対応

②価格以外の評価軸

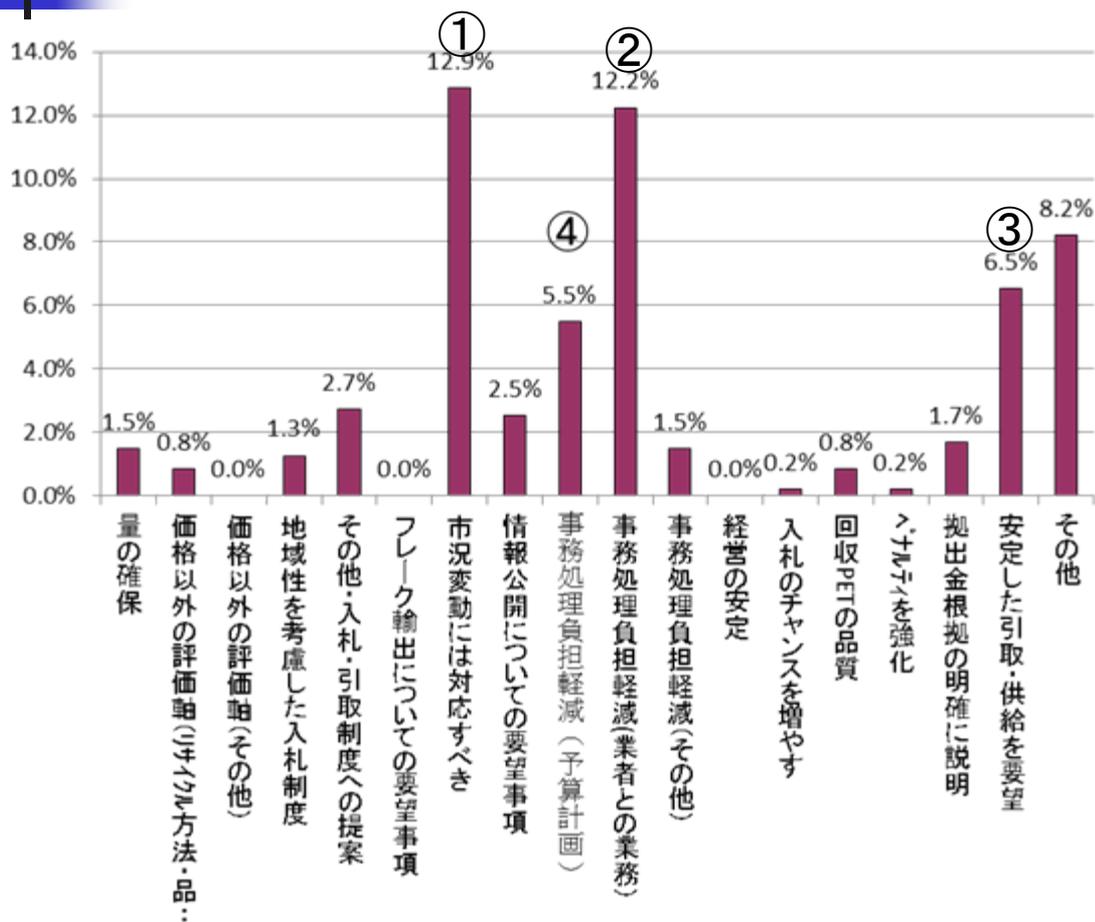
③量の確保

•現在のシステムでは市況からはなれた入札価格になってしまうのではないかと。現在の入札制度は過度な競争となることで、入札価格の上昇につながることが危惧される。

•事業者の再生可能能力量約42万トンに対し、入札量が約20万トンと50%を切っていることも問題だと思えます。入札制度ですから、事業者で競わせて価格が変動するのは理解できますが、落札量が極端に少ない事業者が多く出ており、昨今では販売価格は後回しで、とりあえず高く入札して量だけ確保する風潮になっていると思えます。これでは、利用者の原料市況などの意見は通らず、販売(購入)価格交渉がやりにくい状況です。量確保のために遠方まで落札している事も問題だと思えます。近隣の事業者が落札できず、遠方までトラックを向かわせて引取を行う。リサイクル事業で環境に良いことをしているのに、トラックを遠方に出すことで、燃料などのエネルギーを無駄に使っているのは本当に環境に良いことなのかと思えます。

④ 安定した引取・供給、地域制考慮

アンケートからの抽出項目(市町村) 471市町村



- ① 市況変動への対応
- ② 事務処理負担の軽減
- ③ 安定した引取・供給

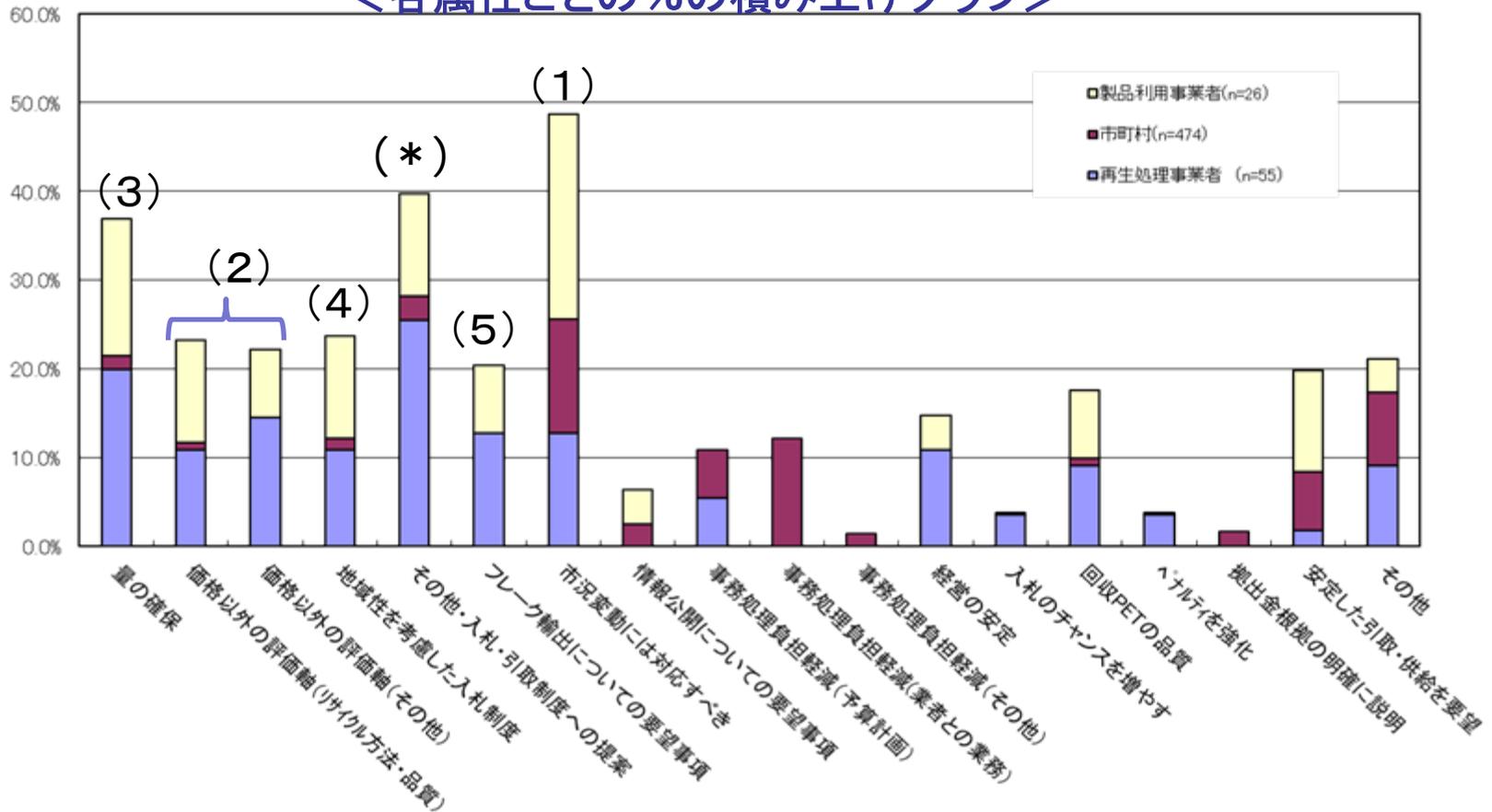
•想定外の価格変動に対応しないと、入札参加業者に負担をかけ、制度の継続的運用に影響が出る可能性がある。**変動に合わせて入札を実施**するのが効率的と考える。

•自治体によっては、年度当初の落札単価を元に、1年間の歳入額の予想を立てている。**年度途中で単価が変動することは、歳入額の予想がしづらくなるので、今まで通り、年1回の入札が望ましい。**

- ④ 事務処理負担軽減

アンケートからの抽出項目(総合)

〈各属性ごとの%の積み上げグラフ〉



<参考>

「その他入札・引取制度への提案」の主な意見

<再商品化事業者>

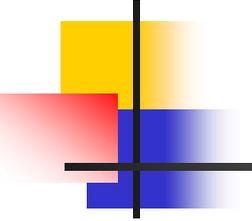
- ・最低保証量の確保 ・特定の大規模事業者が大量に受注できない仕組みも必要
- ・入札単価を抑制する仕組みがほしい(入札上限単価設定等)
- ・市町村の円滑な引渡しを促すべく地方自治法の改正を含め、輸出の歯止めのための法的規制をお願いしたい。

<利用事業者>

- ・定期的に価格改定を行うべき ・国内利用者の原料市況等を勘案して入札して欲しい
- ・再商品化製品利用事業者が、市場と連動した適正な価格で安定的に再生PETフレークを調達できる制度

<市町村>

- ・入札額の上限下限の設定 ・年2回の入札に対応できない最悪な状況のために下限指標も決めておく。
- ・海外市況に影響されないような業界団体の構造改革を行ってほしい。(国内流通をメインに構築)



3. 主要抽出項目と原因・問題点の絞込み

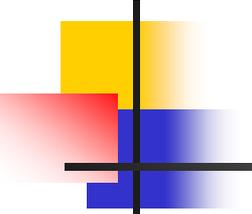
(1) 市況変動には対応すべき

(現象・現状)

- ・リーマンショックのような世界的な金融危機でなくても、ポリエステル素材の市況変動によって平成24年度のようなPETボトル再商品化製品の販売不振、在庫急増が発生した。

(原因・問題点)

- ・原則年1回入札による、再生PETボトル素材の、**バージン樹脂市況への追随性の低さ**
- ・落札可能量と引渡し量の乖離が大きく、**過当競争**となり**高値落札**が2年以上続いた。



主要抽出項目と原因・問題点の絞込み

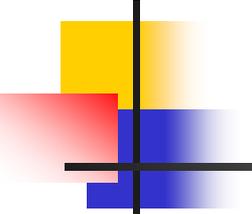
(2) 価格以外の評価軸の導入

(現象・現状)

- ・現在の容リ協のPETボトルの入札制度では、ケミカルリサイクル(対象は1社のみ)優先も含めて、原則は入札単価のみにより落札事業者が決まっている。

(原因・問題点)

- ・入札単価がすべてであり、**高値落札**を助長する。
- ・BtoB、食品用トレイ用途などの**新規需要拡大、高度な品質のリサイクルなどの推進を実現しづらい。**



主要抽出項目と原因・問題点の絞込み

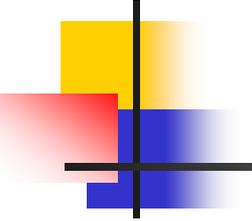
(3) 量の確保が必要

(現象・現状)

- ・現在の容リ協へのPETボトルの引き渡し量は年間約20万トン、登録事業者の査定処理能力合計は約38万トン。

(原因・問題点)

- ・落札可能量と引渡し量の乖離が大きく、**過当競争**となり、**高値落札**の原因となる。



主要抽出項目と原因・問題点の絞込み

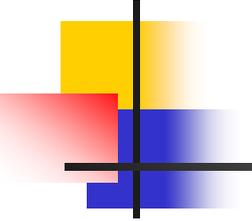
(4) 地域性を考慮した入札制度

(現象・現状)

- ・現在の容リ協のPETボトルの入札制度では、入札対象保管施設を地域で限定せず、全国どの事業者でも入札できる。

(原因・問題点)

- ・規模が大きく、有利な物流網を構築している事業者は、遠隔地の保管施設でも落札可能なため、**過当競争**を助長することになる。
- ・市町村が行う住民への説明などで、二酸化炭素削減、省エネなどと矛盾する印象を与える。



主要抽出項目と原因・問題点の絞込み

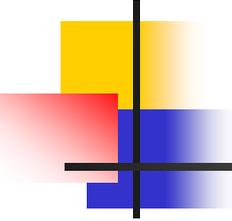
(5) フレーク輸出解禁の要望・必要性

(現象・現状)

- ・現在の容リ協のPETボトル再商品化製品のうち、ペレットのみ輸出を認めている。

(原因・問題点)

- ・フレークを国内にしか販売できず、国内の再生PETが過剰状態となった場合、**価格の下落**を招く。



4. 現状の問題点と検討課題(案)

1. 再生PETボトル素材の市況追随性の向上
 - (1) 入札回数の見直し
 - (2) 期中の市況連動が可能な方式の検討
2. 再生PET材料に対する需要拡大
3. 落札可能量と引渡し量の乖離

4. 現状の問題点と検討課題(案)

1. 再生PETボトル素材の市況追随性の向上(1)

検討課題(案)	アンケート等の意見、指摘								
<p>(1)入札回数の見直し <短期課題></p> <p>(1回/年 ⇒ 複数回/年)</p> <p>○回答選択状況</p> <table data-bbox="305 915 763 1143"> <tr> <td>再商品化事業者</td> <td>23%</td> </tr> <tr> <td>利用事業者</td> <td>36%</td> </tr> <tr> <td>市町村等</td> <td>40%</td> </tr> <tr> <td>加重平均</td> <td>33%</td> </tr> </table> <p>○回数は、年2回が回答数の80.7%</p>	再商品化事業者	23%	利用事業者	36%	市町村等	40%	加重平均	33%	<p>○再商品化事業者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・半年単位で販売価格に応じた入札が行えるため。 ・落札した事業者、落札できなかった事業者、どちらにも公平にチャンスが与えられる。 ・本音を言えば2月に1回が弊社予算上も都合がよいが実態に沿う体制を踏まえると年2回までが妥当
再商品化事業者	23%								
利用事業者	36%								
市町村等	40%								
加重平均	33%								

現状の問題点と検討課題(案)

1. 再生PETボトル素材の市況追随性の向上(2)

検討課題(案)	アンケート等の意見、指摘
<p>(1)入札回数の見直し <短期課題> (1回/年 ⇒ 複数回/年)</p> <p>(続き)</p>	<p>○利用事業者</p> <ul style="list-style-type: none">・入札のチャンスが二度あれば、相場変動に対応できる確率が高くなると予想する。・昨年の6月はバージンと再生品の価格差が無く、再入札でメリットが出て来た為。

現状の問題点と検討課題(案)

1. 再生PETボトル素材の市況追随性の向上(3)

検討課題(案)	アンケート等の意見、指摘
<p>(1)入札回数を見直し <短期課題> (1回/年 ⇒ 複数回/年) (続き)</p>	<p>○市町村等</p> <ul style="list-style-type: none">・年1回の入札で年間の市況を判断するのは難しいが、年複数回(2~3回)であれば判断しやすい。その上で、落札業者が契約を完全に履行することを望む。・当市における独自処理ルートのパットボトル処理は上期・下期の2回入札で事業者選定しており、今年度も含めて例年この入札回数で順調に引取りが進行しているため。

(1) 入札回数の見直し：アンケート等の意見、指摘

○再商品化事業者

- ・半年単位で販売価格に応じた入札が行えるため。
- ・落札した事業者、落札できなかった事業者、どちらにも公平にチャンスが与えられる。
- ・本音を言えば2か月に1回が弊社予算上も都合がよいが実態に沿う体制を踏まえると年2回までが妥当。

○利用事業者

- ・入札のチャンスが二度あれば、相場変動に対応できる確率が高くなると予想する。
- ・昨年の6月はバージンと再生品の価格差が無く、再入札でメリットが出て来た為。

○市町村等

- ・年1回の入札で年間の市況を判断するのは難しいが、年複数回（2～3回）であれば判断しやすい。その上で、落札業者が契約を完全に履行することを望む。
- ・当市における独自処理ルートへのペットボトル処理は上期・下期の2回入札で事業者選定しており、今年度も含めて例年この入札回数で順調に引取りが進行しているため。

現状の問題点と検討課題(案)

1. 再生PETボトル素材の市況追随性の向上(4)

検討課題(案)	アンケート等の意見、指摘								
<p>(2)期中の市況連動が可能な方式の検討</p> <p style="text-align: center;"><短期課題></p> <p>(フォーミュラー方式)</p> <p>○回答選択状況</p> <table data-bbox="347 913 811 1142"> <tr> <td>再商品化事業者</td> <td>42%</td> </tr> <tr> <td>利用事業者</td> <td>24%</td> </tr> <tr> <td>市町村等</td> <td>27%</td> </tr> <tr> <td>加重平均</td> <td>31%</td> </tr> </table>	再商品化事業者	42%	利用事業者	24%	市町村等	27%	加重平均	31%	<p>○再商品化事業者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工場、会社の経営計画として、最低1年間は見ておきたい為。 ・年複数回入札(b)では健全運営が困難、複数年に1回入札(d)では落札失敗時に事業継続が見込めない。 ・再生品の利用事業者にリットを持たせ、国内需要を増やしていかなければ、近い将来中国が買わなくなった時に本当の崩壊が訪れると考える。従って年1回にして、利用事業者の買値の変動に合わせるべき。
再商品化事業者	42%								
利用事業者	24%								
市町村等	27%								
加重平均	31%								

現状の問題点と検討課題(案)

1. 再生PETボトル素材の市況追隨性の向上(6)

検討課題(案)	アンケート等の意見、指摘
<p>(2)期中の市況連動が可能な方式の検討</p> <p style="text-align: center;"><短期課題></p> <p>(フォーミュラー方式)</p> <p>(続き)</p>	<p>○市町村等</p> <ul style="list-style-type: none">途中で事業者が変わることがないので調整に手間取ることはなく、スムーズな引渡しが可能。減額だけでなく、増額にも対応が可能となる。ペットボトル選別処理施設の安定した操業を行うため、引取業者の変更は最小限が望ましい。年1回の入札であれば、関係者の事務も従来どおりであるし、今年度のような緊急を要する事態にも速やかに対応が取れると思われるため。

(2) 期中の市況連動が可能な方式の検討：アンケート等の意見、指摘

○再商品化事業者

- ・工場、会社の経営計画として、最低1年間は見とおきたい為。
- ・年複数回入札(b)では健全運営が困難、数年に1回入札(d)では落札失敗時に事業継続が見込めない。
- ・再生品の利用事業者にメリットを持たせ、国内需要を増やしていかなければ、近い将来中国が買わなくなった時に本当の崩壊が訪れると考える。従って年1回にして、利用事業者の買値の変動に合わせるべき。

○利用事業者

- ・再生PET樹脂は基本的にはバージンPET樹脂の価格に連動すると考えられるため。
- ・根本的な問題は別にあるが、解決には時間が掛かる為、応急処置としては一番適当。入札の回数を増やすのは、混乱を招くだけ。

○市町村等

- ・途中で事業者が変わることがないので調整に手間取ることなく、スムーズな引渡しが可能。
- ・減額だけでなく、増額にも対応が可能となる。
- ・ペットボトル選別処理施設の安定した操業を行うため、引取業者の変更は最小限が望ましい。
- ・年1回の入札であれば、関係者の事務も従来どおりであるし、今年度のような緊急を要する事態にも速やかに対応が取れると思われるため。

(2) 期中の市況連動が可能な方式の検討：アンケート等の意見、指摘

- 落札単価を変動させる場合の指標はどのようなものが適切だと思いますか。
⇒ 基本的にはバージンPET樹脂価格（具体例としてICIS、国内、輸入）
- 以下はプラスαの指標としての提案例

○再商品化事業者

- ・国内及び国際再生材市況
- ・原油などの多くの指標(5個以上)のうち2個以上外れたら調整
- ・影響度合いを定量評価可能な価格フォーマミュラー(バージン樹脂や為替)
- ・再商品化製品の平均在庫月数など直接的な指数
- ・原油、ナフサ、PX、EG等
- ・代表的な利用事業者購入価格
- ・買い取り価格の平均値、バージン樹脂に対する再生原料の比
- ・近隣諸国のA級ペットフレークの相場
- ・再生ペレット価格

○利用事業者

- ・原料の国際取引価格
- ・為替とICIS

○市町村等

- ・原油価格、為替
- ・協会と再生処理事業者の協議
- ・国際的な大暴落のとき
- ・廃PETボトル再商品化協議会発表のPETフレーク市況
- ・引取辞退希望事業者の割合
- ・景気指標、GDPなど
- ・過去3年位の平均
- ・相場と落札単価、再生原料価格とバージン材価格の差額や比率
- ・変動幅は、10%未満 1、10~20% 4、20~30% 6、30~50% 7、50%以上1の回答あり

現状の問題点と検討課題(案)

1. 再生PETボトル素材の市況追随性の向上(7)

検討課題(案)	アンケート等の意見、指摘
<u>(3)入札単価の制限</u> <中長期課題>	<p>○再商品化事業者</p> <ul style="list-style-type: none">・入札単価を抑制する仕組みがほしい (入札上限単価設定等) <p>○市町村等</p> <ul style="list-style-type: none">・入札額の下限上限を定めておき、年1回の入札で下限を下回れば、協会のプール金額から補充。上限を上回れば協会へプールする。

現状の問題点と検討課題(案)

1. 再生PETボトル素材の市況追随性の向上(8)

検討課題(案)	アンケート等の意見、指摘
<p>(4) <u>地域性を考慮した入札制度</u> <u><中長期課題></u></p>	<p>○再商品化事業者</p> <ul style="list-style-type: none">・エリア・ブロック別入札制度導入の検討。・保管施設の所在地を基に入札可能地区を制限し、入札価格の過熱を防ぐ。 <p>○市町村等</p> <ul style="list-style-type: none">・引き取り先が遠方にならないように、エリアを区切ってほしい。

現状の問題点と検討課題(案)

2. 再生PET材料に対する需要拡大(1) (=出口の需給ギャップ解消)

検討課題(案)	アンケート等の意見、指摘
<p>(1) <u>価格以外の評価軸(国内新規需要の拡大促進、国内リサイクル優先、等)</u> <u><中長期課題></u></p>	<p>○再商品化事業者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・その他プラ同様の総合的評価の導入 ・設備能力、生産した再生材の品質、納品実績、販売単価、再商品化製品利用事業者の評価、等を総合的に評価 ・品質面、技術面、社会貢献、サービス面で、利用事業者や市町村からの声が反映できるような評価制度 ・ユーザー満足度(品質や対応)や引取自治体からの評価。 ・資源問題・環境問題等に再商品化事業者・再商品化製品利用事業者が取り組んだ実績・効果

現状の問題点と検討課題(案)

2. 再生PET材料に対する需要拡大(2) (=出口の需給ギャップ解消)

検討課題(案)	アンケート等の意見、指摘
<p>(1) <u>価格以外の評価軸(国内新規需要の拡大促進、国内リサイクル優先、等)</u> <u><中長期課題></u></p> <p>(続き)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・国内販売能力、製品グレードによりランク付けを行い優先枠を導入すべき ・再生品のトレーサビリティを徹底し国内利用の優先度をあげる仕組み ・中間処理及び利用事業者として一貫生産事業者の優先枠制度 ○利用事業者 <ul style="list-style-type: none"> ・国内メーカーのニーズに合わせて品質向上にまじめな取り組み ・市町村からの評価及びユーザーとの取組・用途・品質・技術・安全基準・ISO等の新たな基準を取り入れた評価制度

現状の問題点と検討課題(案)

2. 再生PET材料に対する需要拡大(3) (=出口の需給ギャップ解消)

検討課題(案)	アンケート等の意見、指摘
<p>(1) <u>価格以外の評価軸(国内新規需要の拡大促進、国内リサイクル優先、等)</u> <u><中長期課題></u></p> <p>(続き)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・回収されるPETボトルの数量、②再商品化事業者の処理能力、③国内における再商品化製品利用事業者の使用量のアンバランスが解消しなければ根本的な解決にはならない。特定事業者に対して生産者責任としてのB to Bの拡大施策を講じることを最優先すべきである。 ○市町村等 <ul style="list-style-type: none"> ・ペットボトルがペットボトルに生まれ変わるのは、僅か5%。国内では大手料メーカーと提携しているのは2社程度。ペットボトルが元の姿に生まれ変わる再生事業の確立が理想。

(1) 価格以外の評価軸：アンケート等の意見、指摘

<p>○再商品化事業者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・その他プラ同様の総合的評価の導入。 ・設備能力、生産した再生材の品質、納品実績、販売単価、再商品化製品利用事業者の評価、等を総合的に評価。 ・品質面、技術面、社会貢献、サービス面で、利用事業者や市町村からの声が反映できるような評価制度。 ・ユーザー満足度（品質や対応）や引取自治体からの評価。 ・資源問題・環境問題等に再商品化事業者・再商品化製品利用事業者が取り組んだ実績・効果。 ・国内販売能力、製品グレードによりランク付けを行い優先枠を導入すべき。 ・再生品のトレーサビリティを徹底し国内利用の優先度をあげる仕組み。 ・中間処理及び利用事業者として一貫生産事業者の優先枠制度。 	<p>○利用事業者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国内メーカーのニーズに合わせて品質向上にまじめな取り組み。 ・市町村からの評価及びユーザーとの取組・用途・品質・技術・安全基準・I S O等の新たな基準を取り入れた評価制度。 ・回収されるPETボトルの数量、②再商品化事業者の処理能力、③国内における再商品化製品利用事業者の使用量のアンバランスが解消しなければ根本的な解決にはならない。特定事業者に対して生産者責任としてのB to Bの拡大施策を講じることを最優先すべきである。 	<p>○市町村等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペットボトルがペットボトルに生まれ変わるのは、僅か5%。国内では大手飲料メーカーと提携しているのは2社程度。ペットボトルが元の姿に生まれ変わる再生事業の確立が理想。
--	---	--

現状の問題点と検討課題(案)

2. 再生PET材料に対する需要拡大(4) (=出口の需給ギャップ解消)

検討課題(案)	アンケート等の意見、指摘
<p>(2) フレークの輸出解禁</p> <p style="text-align: center;"><u>＜中長期課題＞</u></p>	<p>○再商品化事業者</p> <ul style="list-style-type: none">・景気回復のためにも、ペレット同様にフレークの輸出解禁を検討してほしい。・フレークの輸出を認める。それによって国内再生材供給過剰となった場合価格の下落が抑えられる。

現状の問題点と検討課題(案)

3. 落札可能量と引渡し量の乖離（1）（＝入り口の需給ギャップ解消）

検討課題(案)	アンケート等の意見、指摘
<p data-bbox="179 654 929 701">(1)市町村独自処理対応<中長期課題></p> <p data-bbox="214 776 942 875">○分別収集したPETボトルの容リ協への引き渡しに対するインセンティブの検討。</p>	<p data-bbox="1012 654 1358 701">○再商品化事業者</p> <ul data-bbox="1025 718 1789 975" style="list-style-type: none"><li data-bbox="1025 718 1789 865">・「独自処理ルート」の自治体等に「容リ協会ルート」へ全量戻すための強制力をもった仕組みの構築が必要。<li data-bbox="1025 882 1789 975">・市町村の円滑な引渡しを促すべく地方自治法の改正を含める。

現状の問題点と検討課題(案)

3. 落札可能量と引渡し量の乖離 (2) (=入り口の需給ギャップ解消)

検討課題(案)	アンケート等の意見、指摘
<p>(1)市町村独自処理対応<中長期課題></p> <p>(続き)</p>	<p>○市町村等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・再び容リ協ルートに戻ってきた自治体にペナルティを科したり、長く継続して容リ協へ依頼をしている自治体(団体)に対して抛出金等の算出時に容リ協ルートでの継続年数を加味したり、入札時において何らかの優遇措置をとるなどの差をつける対応をすべきである。 ・価格について、容器リサイクル協会抛出金の単価が独自処理の市況より低いケースが多い。協会としても少しでも高値で引き取られるよう努力して欲しい。

(1) 市町村独自処理対応: アンケート等の意見、指摘

○再商品化事業者

- ・「独自処理ルート」の自治体等に「容器協会ルート」へ全量戻すための強制力をもった仕組みの構築が必要。
- ・市町村の円滑な引渡しを促すべく地方自治法の改正を含める。

○市町村等

- ・再び容器協ルートに戻ってきた自治体にペナルティを科したり、長く継続して容器協へ依頼をしている自治体(団体)に対して拠出金等の算出時に容器協ルートでの継続年数を加味したり、入札時において何らかの優遇措置をとる等の差をつける対応をすべきである。
- ・価格について、容器リサイクル協会拠出金の単価が独自処理の市況より低いケースが多い。協会としても少しでも高値で引き取られるよう努力して欲しい。

現状の問題点と検討課題(案)

3. 落札可能量と引渡し量の乖離 (3) (=入り口の需給ギャップ解消)

検討課題(案)	アンケート等の意見、指摘
<p data-bbox="179 639 962 682"><u>(2)価格以外の評価軸(落札可能量調整)</u></p> <p data-bbox="566 704 865 746"><u><中長期課題></u></p> <p data-bbox="179 825 1010 968">○需要拡大のための優先枠などの手法が、結果としてPETボトルの原料ベールへの需要調整機能にもなりえる。</p>	